資料1

道内の感染状況等について

【令和4年11月18日】

主な指標の状況

11／17	レベル	移行指標			その他指標	
		病床使用率	重症病床使用率	10万人当たり新規感染者数	新規感染者数今週先週比	陽性率
全 道	2	47.0%（1074床）↗	8.6%（10床）↗	1123.1人/週（58216人/週）↗	1.23 ↗	68.8% ↗
札幌市	2	49.9%（365床）↗	6.1%（3床）↗	1188.6人/週（23305人/週）↗	1.31 ↗	108.8% ↘
札幌市を除く地域	2	45.7%（709床）↗	10.4%（7床）↗	1083.2人/週（34911人/週）↗	1.19 ↗	55.2% ↗

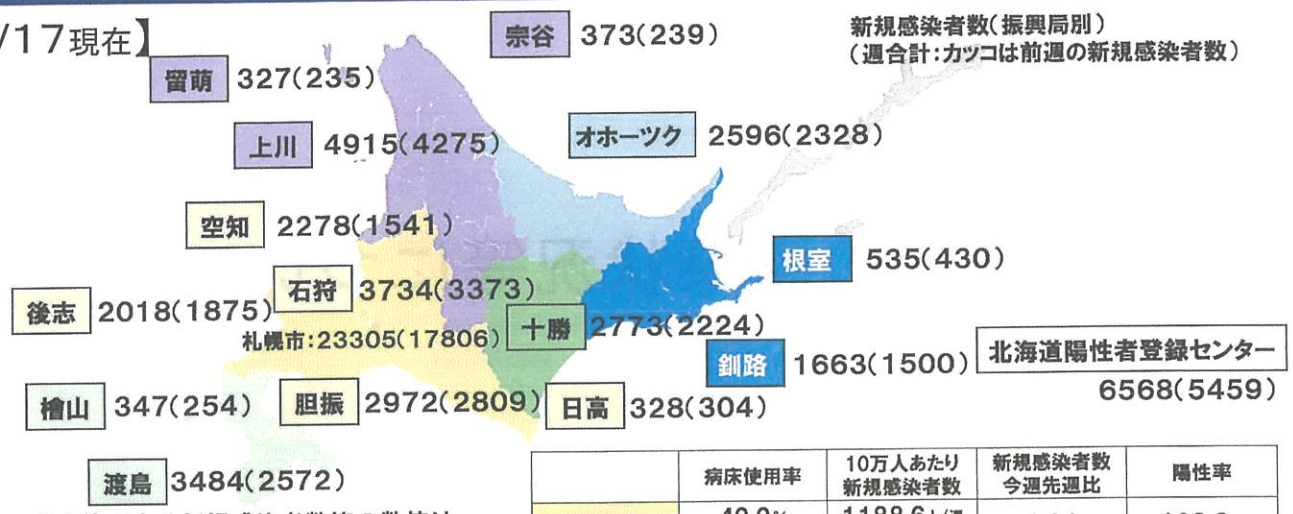
レベル２ 移行指標	20%	又は 20%	15人/週
レベル３ 移行指標	50%	又は 50%	－

※（　）は実数。 各指標の動向（矢印）は、１週間前との比較。

（注）・令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
・レベル分類については、国に対し新たな考え方を示すよう求めており、示されるまでの間は、公表しなくなった指標を除いて運用する。
・全道及び札幌市を除く地域の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数を含めて算出。
・検査数に無料検査、抗原キット自己検査等を含まないため、陽性率が100%を上回る場合がある。

地域における主な指標の状況

【11/17現在】



	病床使用率	10万人あたり新規感染者数	新規感染者数今週先週比	陽性率
札幌市	49.9%（365床）	1188.6人/週（23305人/週）	1.31	108.8%
道央圏（札幌市除く）	50.1%（249床）	847.3人/週（11330人/週）	1.14	43.4%
道北圏	53.3%（178床）	965.6人/週（5615人/週）	1.18	49.0%
道南圏	38.6%（86床）	931.9人/週（3831人/週）	1.36	42.6%
十勝圏	40.9%（70床）	835.5人/週（2773人/週）	1.25	48.1%
オホーツク圏	38.5%（52床）	963.7人/週（2596人/週）	1.12	39.7%
釧路・根室圏	38.3%（74床）	752.8人/週（2198人/週）	1.14	50.3%

※地域別の病床使用率や新規感染者数等の数値は、変動が大きくなる場合があることに留意。
※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、振興局別（圏域別）の新規感染者数は届出があった医療機関の所在地別となっている。また、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
※札幌市以外の各圏域の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数を含めて算出。
※北海道陽性者登録センター分は地域別の内訳が把握できないため、陽性率の算出には含まれていない。
※検査数に無料検査、抗原キット自己検査等を含まないため、陽性率が100%を上回る場合がある。

総　評　①

【全国の状況】

○ 全国では、新規感染者数の増加傾向が続き、ほぼ全ての地域で先週比が1を上回っている。国の専門家からは、今後も増加の継続が見込まれており、この傾向が続けば、今夏のような感染拡大となる可能性がある、と指摘されている。北海道は10月26日以降、10万人当たりの新規感染者数が全国最多の状況が続いている。

※参考：11月17日、新規感染者数先週比　山形1.15、東京1.25、大阪1.16、福岡1.27（北海道調べ）

【医療提供体制】

○ 病床使用率については、47．0%と、増加傾向が続いている。また、札幌市についても49．9%となっており、いずれも今夏のピークを超えている。また、地域においては、道北圏で高い水準となっている。重症病床使用率は増加しており、8．6%となっている。

【感染状況】

○ 新規感染者数は、人口10万人当たりでは1123．1人となっており、11月12日以降、1，000人を超える状況が続いている。年代別では、約6割を占めている30代以下の割合が減少し、その他の年代の割合が増加している。

総　評　②

【今後の対策】

○ 11月18日、政府対策本部において、新型コロナウイルス感染症対策分科会の議論を踏まえ、「今秋以降の感染拡大で保健医療の負荷が高まった場合の対応について」が決定された。一方で、国の基本的対処方針は、今後、変更される見通しとなったことから、その変更内容を確認していく必要がある。

○ 本道の10万人当たりの新規感染者数は、11月11日以降、過去最多を更新する状況が続き、病床使用率も50%に近づくなど、増加傾向が続いていることから、分科会が示した、感染が著しい地域での呼びかけについて、11月15日の知事記者会見において、政府対策本部の決定や、基本的対処方針の変更を待たず、対策を強化いただくよう、道民の皆様にお願いした。

〈現在の感染状況において道民の皆様へ対策を強化していただきたいこと〉

○ 基本的な感染対策の再徹底（「三つの密の回避、手洗い等の手指衛生、効果的な換気等）
○ 普段と異なる症状がある場合、外出・出勤・登校・登園を控える
○ オミクロン株対応ワクチンの速やかな接種の検討
○ 高齢者や基礎疾患を有する方と接する場合など検査を行う
○ 混雑した場所への外出など感染拡大につながる行動を控える
○ 飲食店では大声や長時間の回避、会話する際のマスクの着用

総　評　③

○ 入院患者数の増加に対応するため、11月14日に全道の即応病床をフェーズ3に引き上げた。現在の感染状況に対応し、必要な病床の確保に向け、医療機関との調整を進める。

○ 地域の医療機関や高齢者施設等における集団感染等に対応するため、道として、日本DMATに医師の派遣要請を行い、11月9日から道内で活動いただいている。現在（17日）、医師6名に釧路、オホーツク圏域で活動いただいており、引き続き、地域の入院調整や施設等の感染防止対策を進めていく。

○ 季節性インフルエンザとの同時流行対策については、外来医療体制の強化等を図る「外来医療体制整備計画案」を、11月14日、国に提出し、国との協議を進めている。今後、医療機関にも協力をいただきながら、診療時間の延長など、地域の実情に即した体制整備を進めていく。なお、今シーズンの季節性インフルエンザについては、未だ流行には至っていない状況にある。

※全道のインフルエンザ定点報告　(11/7～13)3件、(今シーズン9/5～11/13)20件

○ 道内の流行株は、BA.5系統が主流となっているが、本日、道内初となるBQ.1.1系統の感染が札幌市で確認された。国の専門家からは、オミクロン株の亜系統については、今後、さらに割合が増加する可能性があり注視が必要、と指摘されており、引き続き、ゲノム解析により、道内における動向を監視していく。

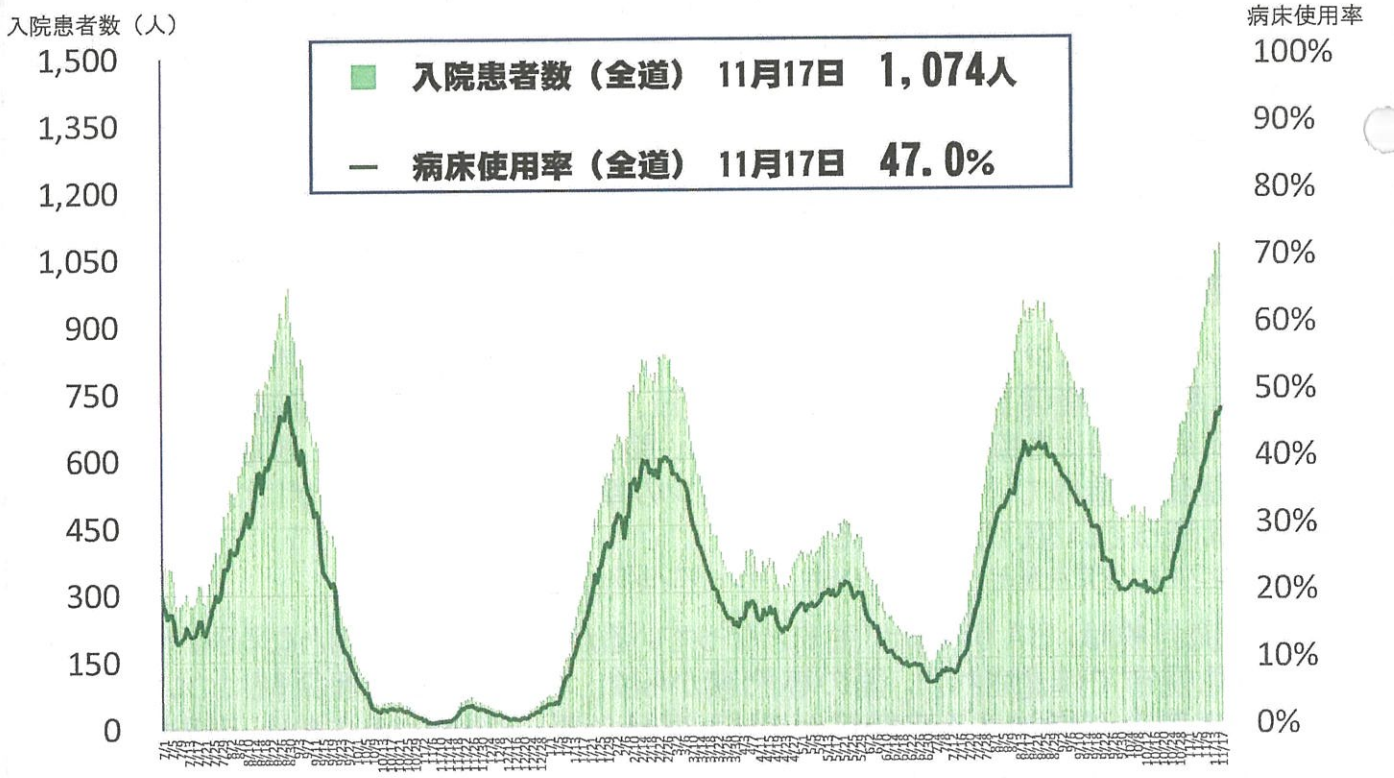
※欧米では、BQ.1系統やBQ.1.1系統の占める割合が増加している国もあり、今後、さらに割合が増加することが見込まれているが、現時点では感染者数の顕著な増加は確認されていない。(R4.11.17 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード

総　評　④

○ オミクロン株対応ワクチンの接種については、11月、12月が接種のピークを迎えることから、年内に希望する方全員が接種いただけるよう、先行事例等の情報提供を行うなど、市町村への支援に努める。また、12歳以上の若年者に対しては、学校と連携した情報発信を強化するなど、様々な世代に接種を検討いただけるよう、ターゲットに合わせた集中的広報を展開する。

○ 無料検査事業については、12月末まで期間を延長することとする。

○ 国の分科会で議論されているオミクロン株に対応したレベルや対策の見直しについては、基本的対処方針の速やかな変更、総理から国民に対する必要な呼びかけを全国一律で実施することなどについて、病床確保料の見直しに関する柔軟な運用と併せて、11月16日には厚生労働大臣と意見交換するとともに、17日には全国知事会で議論を行い、18日には関係省庁に対し、要請を行った。

○ 11月16日、道の有識者会議を開催し、これまでの対応状況や、国の動きを踏まえた対応方向について、ご意見を伺い、総じて異論は無かったものの、分かりやすい情報発信、ワクチン接種の推進、感染防止対策の徹底と社会経済活動との両立などが課題といったご意見をいただいたところであり、こうした意見も踏まえ、取組を進めていく。

入院患者数と病床使用率（全道）